

研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-205
研究課題名 家族性乳がんにおける BRCA1/2 遺伝子変異と BRCA1 結合分子の発現の相関
研究期間 西暦 2014 年 3 月（倫理委員会承認後）～ 2016 年 3 月
対象材料 <input checked="" type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 乳癌組織） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input type="checkbox"/> その他（）
上記材料の採取期間 西暦 1991 年 1 月～ 2014 年 2 月
意義、目的 家族性乳癌で認められることが多い BRCA1/2 遺伝子変異を有しているのかどうかを BRCA1 と関連する蛋白質をみることで予測可能かどうかを検討します。これが可能となれば、家族性乳癌が疑われた場合も、様々な問題を孕んだ遺伝子検査をすぐするのではなく、簡便な検査で遺伝子変異のおおよその有無がわかります。また BRCA1/2 遺伝子変異を有していると特定の薬剤に効きやすいということも分かっています。そのため、簡便な検査で薬物の効果予測も可能となる可能性があります。
方法 手術で切除し、当院で保存している乳癌組織を、完全な匿名化をしたうえで、どのような蛋白質が検出されるか検討いたします。無断で遺伝子検査などを施行するものでは決してなく、他院で遺伝子検査を施行している変異が分かっている症例と比較して、どのような蛋白質の差があるかを検討させていただく予定です。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学大学院医学系研究科 腫瘍外科学分野 助教 渡部剛 TEL:022-717-7214 FAX:022-717-7217